



で企業などに販売する「トラックマルシェ」の取り組みが始まった。

新しい働き方に追い風 23

在宅ワークや副業人材の活用など、新型コロナウイルスの感染拡大によって多様な働き方が社会に浸透する中、新しい働き方を実践してきた県内企業には追い風が吹く。

南会津病院が外来休診 23

全国の高専生が廃炉ロボットの技術を競う「第5回廃炉創造ロボコン」がオンラインで開かれ、福島高専が初めて最優秀賞の文部科学大臣賞に輝いた。

ふくしま物語のステージ
安達ヶ原の鬼婆伝説(二本松市)
尖閣に安保適用 確認
ロシア抗議デモ3500人拘束
人生百年の達人探録
平幕大栄翔が初優勝 15

特集 健康 12 シニア 13
お悔やみ 17 窓 18 小説 7
碁・将棋 7 PM2.5情報 21



2021年(令和3年)

1月25日 月曜日

旧暦12月13日 赤口 一白

発行所 福島民友新聞社 〒960-8648 福島市柳町4-29 代表電話 024-523-1191 www.minyu-net.com

福島民友

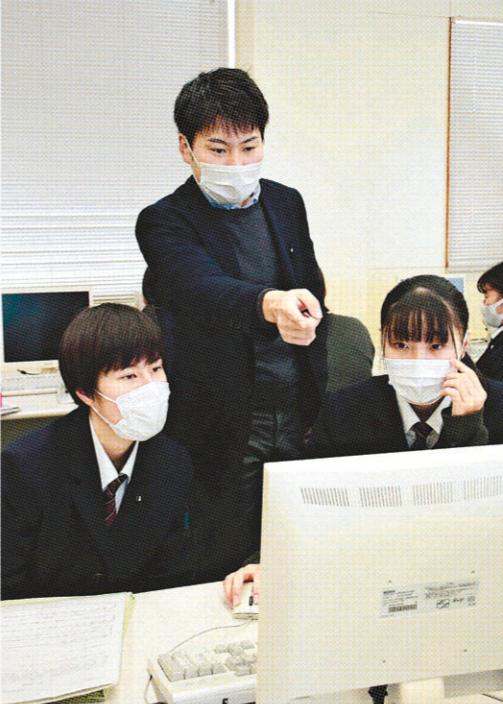


外部人材発掘へ一手

県立高地域コーディネーター

県教委が配置

地域に根差した学習を通じて県立高の特色化を進めるに県教委が不可欠だ。県教委は本年度、喜多方高と養高に地域と学校が連携していくまでの調整を担う「地域コーディネーター」を配置した。学校のニーズを把握して適切な外部人材の情報を集約、学校間で共有する「地域人材ネットワークバンク」の構築に向けて動きだした。(報道部・松永優子、喜多方支社・羽野拓貴)



生徒からの質問や相談に答えるながら授業をサポートする佐々木さん(中央)=喜多方高

ニュースの核心

◆個性豊かな講師

「生徒が地元のことを考える材料になれば」。西会津町に移住し、夫婦でゲストハウスを営む佐々木雄介さん(33)=福島市出身=は、喜多方高で地域「一

生徒が地元のことを考

えられる」と目を輝かせた。

佐々木さんは自身も、移住

して授業をサポートし

ている。今月行われた授業

では、研究でアンケートを

作り方を指導。授業を受けた神田和佳さん(16)=先

輩の「卒業生

が偏りがち」(高校教育課)

で、偏りがち」(高校教育課)

</div